

企業名：富士フィルム

レポート名：統合報告書

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

富士フィルムは Sustainable Value Plan 2030 という 2030 年に達成すべき目標を立てている。SVP2030 は事業を通じた社会課題の解決、事業プロセスにおける環境、社会への配慮による 4 つの重点分野と事業活動の基盤における 4 ステップ、1 基本方針の明確化、2 事業戦略を踏まえた社会課題の抽出、3 重要性評価、4 計画立案承認のプロセスを踏んで持続可能な社会にさまざまな面から貢献していこうとしている。

### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

富士フィルムグループの企業価値の源泉であり、競争優位性を作り出しているのは『企業風土』、『技術力』、『人材』、『ブランド』、『グローバルネットワーク』である。22 言語で展開されるインナーブランディング活動や 58208 件の特許保有、世界でのブランド認知率 96%、連結子会社数 310 社などがある。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

上にあげた主な競争優位性の中で企業風土、技術力について述べると、これからのグローバル化の中で多言語を利用し獲得ターゲットを増やすのは重要であるが、この点富士フィルムは 22 言語の使用をしており、将来を見据えられている。また、特許保有が 58208 件あり、特許はこれからも一定期間保有されるので、将来における競争優位性の一定程度の持続は認められる。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

まず富士フィルムはホワイト 500 に選出されており、企業として労働者に健全に労働環境を提供できている。さらに世界中にマーケットを保持しており、その市場も大きなマーケットから小規模の振興マーケットなど幅が広いいため、多様な経験をつう事が可能である。又多岐にわたる事業を展開している中で自身の人的資本の価値を向上させる事ができると思う。

### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

富士フィルムグループの統合報告書は基本的にカラーで見やすさなどに配慮され、図や表が使われているのは素晴らしいと思った。また事業と生活が関連していることを記した部分は興味深く感じた。ただ統合報告書の読み手を誰とするのかにもよるが、少し冗長なように感じられる部分や専門的な単語が使われすぎていて読みにくい部分があり、読者層を広

げ当企業の魅力を伝えるのに改善できる点があるように思われる。